

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あい楠見
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	和歌山市楠見中197番地の8
記入者名 (管理者)	西 裕子
記入日	平成 20年 2月 4日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「愛のある生活」を理念とし、日々の生活を支えている。なかなか地域の中に入り込んでという所まではできていないため、今後の課題である。</p>	○	その人らしくその人の立場に立って接することは、介護者として当たり前のことではあるが、全員の方にできているとは限らないため、日々努力が必要である。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>一日の生活の一場面をいかにいかせていけるかという常に考えて行動するよう日々取り込んでいる。</p>	○	日によっていかせる時といかせられない時があるため、常にプロ意識を持ってコントロールする必要がある。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入り口や各フロアに理念を掲げ常に目に入れて頂けるようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩やドライブに出かけた時は、必ず挨拶を交わしたり、世間話をしたりと積極的に声かけを行っている。</p>		今後も積極的な声かけを行っていききたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近くに同じグループの介護老人保健施設があるため、一緒に参加させてもらっている。今後は、自治会や老人会等にも参加して地域との交流を大切にしていかなければならない。</p>	○	今後は当施設でイベント等を行う際は、新聞等のお知らせを配布し参加を募りたい。

あい楠見(グループホーム)自己評価

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々と会話を交わすことがあっても職員同士で話し合い取り組むまではできてない。	○	会議等で話し合いの機会を増やし何か一つでも地域の役に立てるようなことを考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	当施設ができて初めての自己評価であると同時に、運営者、管理者、職員も初めての経験であるため、まず「自己評価とは？」からの取り組みである。	○	改善できる所から少しずつ改善を行い外部評価をいかしてより良い施設にしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ、運営推進会議は行えていない。	○	今後は、運営推進会議を開催しサービスの質の向上を目指していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に行った時には、色々と教えて頂いたりするが、なかなか連携というところまではいけない。	○	今後は積極的に市の方とも連携をとり、より良いサービスが行えるようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については、まだ学ぶ機会を持っていない。	○	今後は研修会などに参加しそれらを活用できるよう支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に注意を払い、少しでもそのようなことが見受けられる場合は、カルテに記事を残すよう心がけている。	○	一番あってはならないことなので十分に注意を払う必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約にあたっては時間をかけて説明し、後日、疑問点などを聞かれた場合も十分に説明を行うようにしている。</p>	<p>○</p> <p>お互いが書類を前にして確認し合い、一つ一つの項目を理解していけるよう説明する。契約を結んだ後でも、疑問点には丁寧に説明していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各居室で話をしたり、ドライブへ行くときに話をしたり、会話の中から不満や意見などを聞き改善していけるよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>利用者全員の思いは、引き出しきれていないと思うが利用者一人一人の顔を見ながら快適に過ごしてもらえるようにしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>各個人によって連絡が必要な方そうでない方をピックアップし個人にあわせた報告を行えている。随時ADLの見直しも行っている。</p>	<p>○</p> <p>金銭管理の面で書くそれぞれお金を預かっていないため、自由に使えるお金がない。家族は持たせたくないが、本人は持ちたいなど解決すべき課題である。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入り口に意見箱を設置したり、来所時は、声かけを行い、話をする場を設けたりと機会を作っている。それらを伝達ノートやスタッフ会議などで話し合いを行っている。</p>	<p>○</p> <p>より良い施設にしていくため外部からのご意見や苦情は必要であるため今後も話し合いが必要である。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>責任者会議、スタッフ会議など話し合いの場を設けたり、半期に一回各スタッフ一人一人と話し合う機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>皆の施設であるため、職員一人一人の意見は大切であるため、今後も反映させていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状態に合わせた臨機応変な対応ができるよう心がけている。</p>	<p>○</p> <p>利用者や家族の気持ちをふまえ、柔軟な対応ができるような勤務の調整に努めていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者に迷惑をかけないよう代わりの職員の補充をし、教育して今まで通りの支援ができるよう配慮する。</p>	<p>○</p> <p>今まで同様の支援ができるよう職員教育をしっかり行う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>利用者の生活を尊重してもらい、適切なケアを行う為、定期的に会議を開く。施設に関係ある情報を手に入れ、サービス内容を改善している。スタッフ全員に対して定期的に施設内外の研修や会議を行い、関連施設と連携をとり、介護技術や利用者対応等の勉強を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設に行き、環境や設備に対する工夫を見ること。その施設の管理者や職員の意見を聞いてサービスの違いを学ぶ。この情報を基にして常に質の向上を考えながら業務を行う。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を設けて毎日リラックスできる環境を作っている。職場内の親睦を深め、意志疎通を計る為に食事会や社内旅行をしている。現場の働く環境を把握し、工夫している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>現場で起きている状況や変化を知る為、管理者と密に話できる様にしている。一人ひとりの向上心や実績、働く環境を把握する為、定期的に評価をしている。</p>	
<p>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族によっては利用開始まで本人の混乱を避けるために、会う機会を設けてもらえない場合がある。その場合、家族経由で、本人が感じていることを伝えて頂くことになる。</p>	<p>○</p> <p>できる限り本人自身の声を受け止められるよう、家族にも理解して頂き、初期の段階から本人と信頼関係を築いていけるようにする。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>訪問、来所、電話などの方法により、回数を重ねて、家族の困っていることなどをよく聴くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>臨機応変に、訪問、来所、電話などの方法で、話し合う機会を作り、どんなことでも傾聴して受け止めていき、信頼関係を築いていけるようにしていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設内のサービスに限らず、本人と家族が、その時必要としている支援を考え、他のサービスを紹介することも考慮している。	○	本人や家族が本当に必要としているサービスを見極め、広い視野で、他のサービス事業所も含めた適切なサービスの紹介ができるよう心がける。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までの体験利用や、開始前に利用しているサービスがあれば、協力、連携を得て、参加させてもらうなど、工夫している。	○	本人が安心してサービス利用できるよう、開始前の訪問や体験利用をしてもらい自然にサービス開始となるよう、工夫していく。開始前に関わっているサービス事業所との連携をとっていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に共に生活をしているということを頭に入れ、人間対人間のお付き合いをしている。また、人生の先輩である入居者からは学ぶことが多々あり、共に支え合う関係を築けている。	○	利用者様ではあるもののお客様ではないため、時には家族同様、愛のある厳しい助言をしたりすることもある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を、家族が来所時、または電話で伝えることにより、信頼関係を築くよう努力している。		今まで同様努力していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の思い、状況に応じ、外出、外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、電話をすることにより良好な関係を気づくよう努力している。		今まで同様努力していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の病院、施設に入院、入所されている親族、知人を訪問することによりなじみの関係を継続できる様、努めている。		今まで同様努力していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の仲の善し悪しを理解し、利用者同士の助け合いを支援している。また良好な人間関係が築ける様、職員が入居者の間に立つ。		今まで同様努力していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居(在宅復帰)された利用者を小規模多機能に登録して頂き、関係を継続している。		今まで同様付き合いを大切にしていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族としっかり話し合い、本人の自由に思いや希望を取り入れられるよう努力している。	○	全ての利用者の方の思いや希望を取り入れられているのか疑問ではあるが、楽しい生活を送って頂けるよう努力する必要がある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と話し合った相談記録をもとに、皆で話し合い一人一人に合ったサービスを提供できるよう努力している。	○	個別の関わりを増やし、より深く思いや希望を叶えていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の出来事をカルテや検温版に記入し、スタッフ会議で意見交換できるよう申し送りを行っている。	○	チームケアを行えるよう全員で意見交換し統一した介護が行えるよう努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見をできるだけ反映できるように意見を聞くようにしている。また、職員の意見や関係するサービス事業所、医療機関からの意見も聞いている。	○	本人、家族はもちろん、総合的な支援をしていくために、医師との関わりをより強いものにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間の見直しはできているが、それ以前の現状に即した見直しができていないことがある。	○	今後、その時その時の本人の状態をとらえ、話し合いの場を持ち、新たな計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を残し、職員で情報を共有している。また変化があった時は随時見直しを行っている。		今後も随時見直しを行いより良いケアができるよう心がけていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族と話し合い、その時々々に応じて臨機応変な対応は、できている。	○	今後も臨機応変な対応で柔軟な支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	何か問題があれば協力して頂くよう連携はとれている。	○	ボランティアの方の受け入れなど積極的に行い交流をはかっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて話し合いを行い、より良いケアを行えるよう努力している。	○	お互い情報交換を行い、本人にあったケアを行えるよう支援している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて話し合いを行い、情報交換を行っている。	○	もっと積極的に地域包括支援センターの方と話し合いを持つ場設ける必要がある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じたかかりつけ医で適切な医療を受けられている。ほとんどの方が隣接されている同グループの中江病院が主である。		ほとんどの利用者や家族は、何かあったときに、すぐ対応できるということで中江病院を選ばれる。

あい楠見(グループホーム)自己評価

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>中江病院のDrに相談したりしている。</p>	<p>○</p>	<p>もっと積極的にDrに相談する機会を増やし、職員も知識を積んでいく必要がある。</p>
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>何か困ったことがあればすぐに対応できるよう連携はとれている。</p>	<p>○</p>	<p>看護師に頼りすぎず、介護士も観察する力を持つ必要がある。今まで通りの連携をとっていきたい。</p>
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院関係者との連携はとれている。</p>		<p>今後も今まで同様病院関係者と連携をとっていく。</p>
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族にアンケートをとり、終末期や延命治療の有無を記入して頂いている。それにより、病院との話し合いがスムーズに行えている。</p>	<p>○</p>	<p>常日頃から、本人や家族とコミュニケーションを密にとり、思いや希望を会話の中から知る必要もある。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>具体的には決まっていないが、今後準備していく必要がある。</p>	<p>○</p>	<p>かかりつけ医と話し合いの場を設け、方向性を決める必要がある。</p>
<p>49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ケアマネージャーと相談の上、住宅改修を行ったり、事業所の紹介などを行っている。環境変化に対する積極的ケアを行う。(声かけを行い常に、コミュニケーションを図る)</p>	<p>○</p>	<p>今後もケアマネージャーと相談の上、利用者にあった環境を提供できるように努めていく。また、本人、家族の精神的ケアも注意して行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人にあった声かけを行うように努め職員間でも注意し合うように心がけている。個人情報スタッフルームに保管している。	○ 今後も一人一人に合った声かけを行い歌人情報が流出しないよう努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別の関わりやコミュニケーションを重視し、自己表現できる環境を作っている。本人の意志を尊重しながら家族、ケアマネージャーと話し合い快適な生活が送れるよう支援する。	○ カラオケ、ぬり絵、計算などレクリエーションを通して、自己表現できる環境を作っていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時々、業務中心になってしまうことはあるが、基本的には利用者のペースに合わせた介助を行っている。	○ 業務中心にならないよう気をつける。コミュニケーションを密に取り、その人のペースに合わせた介護を提供していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月二回の理髪店訪問。マネキュア・化粧、爪切りなど余暇時間に行っている。朝、髪をとかしたり、洗顔するように声かけを行っている。	○ 今まで同様月二回の理髪店の訪問。マネキュア、化粧、爪切りなどを行う。また、毎日の衣装を自分で選べるよう声かけを行って行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け、買い物など一緒に行っている。栄養のバランスを考え、アレルギーや食事の形体などその人に合わせた提供を行っている。職員も一緒に食事に参加しアットホームな環境を作っている。	○ 今後も同様に取り組み、アットホームな環境の中で、一人一人の役割の幅を広げていけるよう配慮していききたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ以外にもお茶を飲む時間を設け、レモンティー、コーヒー、昆布茶、お菓子のサービスを行っている。一人一人の好みに合わせることは難しくそれらは、家族に補ってもらうよう働きかけている。	○ 一人一人の好みのものを提供していくために飲み物など、選択できる種類を増やしていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	担当が一人一人の排泄パターンをチェックし、オムツの種類を変更したり、その方に合った排泄ができるよう支援している。	○	気持ち良い排泄ができるような環境を作っていく、失禁や汚染を少なくしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週二回の入浴を提供しているがそれ以外に希望があればその都度入ってもらっている。入浴時間は、今の所日中のみで夜間には行っていない。	○	一人一人の希望やタイミングに合わせられる環境を作っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人個室になっているため、ゆっくり気兼ねすることなく休んで頂いている。畳を希望される方はリビングで休んでもらっている。また、部屋の温度、明るさなど調節している。	○	居室のベッド周りは整理し、快適に休息して頂ける環境を工夫して作っていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションや余暇活動、生活習慣の中で、その方に合った役割を無理強いせず、進めている。(ビーズ、ドライブ、買い物、ぬり絵、園芸、お菓子作りなど)	○	今後も同様に進めていき、コミュニケーションの中から新しい役割や楽しみごとを探していけるように努めて行く。また季節ごとの行事も増やして行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方に関しては、家族の了承のもとで、もって頂いている。できない方に関しては、必要に応じて、家族に連絡し介助のもとで使ってもらっている。	○	トラブルにならないように配慮し、一人一人の希望にそえるよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物、散歩など、レクリエーションの一つとして取り入れ支援している。	○	今後も同様に色々な場所に外出して頂けるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人的な買い物は提供しているも、普段は行けない場所への外出の機会はまだできていない。	○	遠足など季節にあった場所への外出ができるように努めていきたい。家族と一緒に出かけられる機会を作っていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対する電話を一緒に行ったり、年賀状の作成を行っている。字の書けない方には、代筆するなど介助を行っている。	○	今後も家族や友人に対する手紙や、電話を継続して行っていけるように努め、家族に利用者の情報を職員が定期的に伝えていくようにしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングやロビーなどの空間を提供しゆっくり話せる環境を作っている。また挨拶や笑顔で接することを心がけている。	○	今後もゆっくり、リラックスできる空間作りに努めていきたい。花や緑など雰囲気作りを行っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回会議を行い、事故や身体拘束についての話し合いを行っている。すぐに対応しなければならない事は担当が決め、伝達を行うように取り組んでいる。	○	今後も同様に進めていき、勉強会など職員の知識、意識の向上に努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の帰宅願望に対し、一緒に散歩したり傾聴することにより、本人の心に寄り添う。また職員に入居者の状況を素早く感じ取れるよう指導している。	○	今後も、寄り添うケアを重視し鍵をかけないように工夫する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録は利用者のいるロビーで行い状況を把握する。夜間は3時間毎に訪室し、安全確認を行っている。		今後も今まで同様安全に配慮していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者が洗剤を誤飲されたため、薬品類は必要時手渡している。		管理場所も工夫して危険な物は手の届かないところに置くよう心がけている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった場合、報告書を作成し職員間で情報を共有する。また、予防対策は御家族へ報告する。		再度事故が起こらないよう職員で話し合い伝達しあっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会に参加し疾病の理解を深める。また、緊急時はマニュアルに沿って中江病院へ搬送する。		勉強会や研修会などに積極的に参加している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消化器の位置及び避難経路の確認を職員が把握する。	○	利用者を交え避難訓練を行う必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	4本柵などの身体拘束を希望される御家族に、段階を踏んで説明し拘束を廃止していく。	○	今後も本人家族と話し合いのもと決めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインだけにとらわれず、顔色・食欲・様子などの変化をチェックし、異変の早期発見に努める。		今後も異変の早期発見に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに服薬リストを管理し、職員が把握できるようにしている。また、服薬時は利用者に手渡し服薬確認を行う。		今後も同様確認を行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事量が嚥下・咀嚼の低下に起因する場合は形体を変更する。水分は利用者の好みに応じた物を提供する。		今後も、その都度工夫していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の力に応じた口腔ケアを支援している。		今後も同様支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>管理栄養士により必要カロリーを算出している。水分管理は毎日記録し、職員が情報を共有する。</p>		<p>今後も同様記録し、情報交換していく。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>利用者及び職員はインフルエンザの予防接種を受ける。また、感染予防のためペーパータオルを使用する。</p>	○	<p>感染症に対する対応マニュアルの作成。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p> <p>台所周辺の清潔保持に努めている。</p>		<p>今後も手袋やエプロンをつけて清潔保持を努めている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p> <p>玄関にプランターを置いている。</p>	○	<p>今後はもっと家庭的な雰囲気作りができるよう工夫していきたい。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> <p>居室に馴染みのある人の写真を飾るなどを行っている。</p>	○	<p>馴染みのある家具などを居室に配置し、家と感じる様に支援したい。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> <p>リビング以外にソファを設置し、くつろぐスペースを作っている。</p>	○	<p>座敷が共有スペースになるよう、空間作りに取り組む。</p>

あい楠見(グループホーム)自己評価

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	子供や孫の写真を飾ったり、家具を持ってきてもらったり工夫しているが「家」という雰囲気には少し欠ける。	○	季節感を出すために何か作って置いたりお花を飾ったりもっと工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝空気の入換えを行い、居室に不在の場合は、窓を開け換気を行っている。ロビーには温度計と湿度計を置き調節している。		今後も利用者の体調管理をしっかり行い、特に冬場は風邪などひかないよう今まで同様調節していきたい。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所にわかりやすく目印を付けたり、手すりをつけたりしてできるだけ見守りができるよう工夫している。	○	一人で行けるといことで自信につなげていけるよう工夫を続けていく必要がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室、玄関に目印になるよう、はり絵やのれんをしてわかりやすく工夫している。	○	玄関をもっと家庭的な雰囲気に見られるよう工夫する必要がある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園芸ができるようプランターにお花や、野菜を植えている。	○	外周りの空間をもっと活用できるよう考えていきたい。夏には提灯をつらさげ盆踊りをしたりイベントとしても取り入れていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くいない(まだ行えていない)
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)